



## 旧竹内農場赤レンガ西洋館が自由に見学可能になります(4/1) NPO 法人が西洋館の歴史をまとめた冊子を制作！無償配布します(4/7)

龍ケ崎市教育委員会では、「旧竹内農場赤レンガ西洋館及び関連する竹内家文書」を令和2年1月22日(水)に龍ケ崎市民遺産として認定したことから、同西洋館敷地内にフェンス及び市民遺産の説明板を設置し、令和2年4月1日(水)から自由に見学できるよう整備を行いました。(建物内部には入れません)

また、NPO 法人龍ケ崎の価値ある建造物を保存する市民の会(代表:前田享史)が旧竹内農場赤レンガ西洋館の歴史を研究し、まとめた冊子『竹内農場西洋館竣工100周年記念 竹内明太郎が残したもの－龍ケ崎の赤レンガ西洋館－』を発行します。

冊子は、民間企業の助成金を得て6000部制作(A4判、40ページ)。龍ケ崎市市民活動センター及び市内各コミュニティセンターに配置し、令和2年4月7日(火)から希望する方に無償で配布する予定です。

<p>■見学</p>	<p>【見学が可能な日】 令和2年4月1日(水)から ※夜間の出入りは近隣の方の迷惑となるため禁止です。</p> <p>【場所】 旧竹内農場赤レンガ西洋館(龍ケ崎市若柴町字長山前2240番地46) ※駐車場有り(4台)</p> <p>【注意】 竹内家文書は現在公開していません。</p>
<p>■冊子概要</p>	<p>【タイトル】 竹内農場西洋館竣工100周年記念 竹内明太郎が残したもの－龍ケ崎の赤レンガ西洋館－ (発行部数6000部、A4判、40ページ)</p> <p>【配布時期】 令和2年4月7日(火)から無くなり次第終了</p> <p>【配布場所】 以下①②の施設にて冊子を配置し、希望者に無償で配布します。 ※一人につき1冊の配布 ①龍ケ崎市市民活動センター(龍ケ崎市馴馬町2445) ②市内コミュニティセンター13か所</p> <p>【問合せ先】 NPO 法人龍ケ崎の価値ある建造物を保存する市民の会 代表:前田享史(まえだ きょうじ) 連絡先:080-6637-1950</p>
<p>■資料</p>	<p>・施設写真 ・冊子(見本)</p>

<p>担当課</p>	<p>龍ケ崎市教育委員会 文化・生涯学習課 文化学習推進グループ 担当者:宮嶋(みやしま) 連絡先:0297-60-1563(直通)</p>
------------	--

## ■龍ヶ崎市市民遺産認定第13号「旧竹内農場赤レンガ西洋館及び関連する竹内家文書」

旧竹内農場赤レンガ西洋館は大正9年(1920年)に建てられ、東京駅丸の内駅舎等と同じ上敷免製のレンガが使用されています。さらに、日本家屋の要素を備えていることや、建物西側側部分が蚕室として造られていることなど個性的な特徴を有しています。

竹内家文書には日本初の公園デザイナーである長岡安平の描いた庭園設計図や赤レンガ西洋館竣工書の写真など貴重な資料が残されています。

## ■旧竹内農場赤レンガ西洋館 フェンス



## ■「旧竹内農場赤レンガ西洋館及び関連する竹内家文書」説明板

### 旧竹内農場赤レンガ西洋館

#### ～竹内綱・明太郎親子と竹内農場～

竹内明太郎(1860～1928)は、元・土佐山内家の家老に仕える有力な家臣で、後には実業家・政治家として活躍した竹内綱(1839～1922)の長男として生まれた。弟の一人は、第45代・第48～51代内閣総理大臣を務めた宮田彦である。明太郎は、明治期に鉱山開発事業のため竹内鉱業株式会社を設立し、茨城無煙炭株式会社(茨城県北茨城市)、避兵寺銅山(石川県)等を広く経営した。当時、炭坑や銅山で使用する工作機械は多くを輸入に頼っていたが、これらを自前で開発する事業も展開し、小松製作所(現・株式会社小松製作所)や唐津鋳造所(現・株式会社唐津プレジジョン)を設立する等、実業界の中心で活躍した。

現在地周辺にあった竹内農場は、自らが経営する茨城無煙炭株式会社の労働者に供給する農産物の生産のために開かれた附属農場で、大正5(1912)年に父・綱の宅蔵で官営林80町歩余りを購入したのに端を発する。その後、開墾・開発が進められる過程では、畑のほか、事務所や農夫舎、馬廄、倉庫、放牧場、果樹園等が作られたとみられる。やがて、第一次世界大戦後の恐慌や大正12(1923)年に発生した関東大震災の影響もあって炭坑等の経営は困難なものとなり、大正13(1924)年に竹内農場は、大正13(1924)年に竹内鉱業株式会社は整理・解散された。それに伴い農場も法目を経営を終え、事業整理の後、農地は地元農家に貸し出されることになった。




▲竹内綱(左)・竹内明太郎(右)の肖像

#### ～赤レンガ西洋館の概要～

旧竹内農場のシンボリック的存在であったレンガ造りの西洋館は、大正9(1920)年に竣工した竹内明太郎の別荘である。本人が実際に使用したのは大正12(1923)年までで、翌年から明太郎の弟の一人である竹内直馬の一家が移住し、その後、昭和7(1932)年に一家が東京へ転出するまで使用された。

建物は東京市芝区西久保・幡町の太田園七建築部によるもので、材料の多くは常磐線で輸送され、牛久駅から馬車等で当地まで運んだ。使用されたレンガには「上敷免製」の刻印が確認でき、明治20(1887)年に渋沢栄一が設立に関わった日本煉瓦製造株式会社(埼玉県深谷市)が製造したものであると判明した。同社製造のレンガは、東京駅丸の内駅舎等に使用されたことで知られている。

建物の東側は地上2階/地下1階構造で、三和土の空間、覆のある土間、居間等を備える居住スペースであり、かつては正面にベランダが、裏手には木回りを配した木製の下屋が存在していた。一方、西側は平屋造りで、奥内に炉が設けられ、図面には浴室と記載されている。

このように、素材にもこだわりをさせたモダンな外観と瓦屋根・土間といった日本家屋の要素とが混在した和洋折衷の装いや、内部で養蚕が行える造りなども含め、非常に個性的な存在であったと言える。



▲竣工当時の赤レンガ西洋館(大正9年撮影)

龍ヶ崎市市民遺産

文化財・市民遺産を大切にしましょう  
龍ヶ崎市教育委員会

